

TOKYO
WOMEN'S
MEDICAL
UNIVERSITY

東京女子医科大学

至誠と愛に生きる

女性の社会的地位の向上を願い、女性医師育成に捧げた一生

吉岡彌生が東京女子医科大学の前身である東京女醫學校を創立した1900年(明治33年)。

この時代に、なぜ女子のみの医科学校にこだわったのか。それは、なによりも「女性の社会的地位を向上せしめたい」との思いからであった。女性に参政権もない男尊女卑の風潮が根強く残る時代の中で、女性の地位向上のためには、「婦人に経済的能力を与えること」が肝要であり、「医学医術は婦人に適している」との信念のもと、婦人のための医学専門教育機関を創設しようと考えたのだ。

以来百十余年、東京女子医科大学には、「至誠と愛」に生きた吉岡彌生の創設理念が今も生き続けている。

HISTORY



創業者

吉岡 彌生
Yayoi Yoshioka

1871年 ・遠江国城東郡嶺向村
(現静岡県掛川市上土方)で生まれる。
1889年 ・上京し、済生学舎に入学。
「女医学生懇談会」をつくる。
1890年 ・内務省医術開業試験前期試験に合格。
1892年 ・医術開業試験後期試験に合格。
1895年 ・吉岡荒太と結婚。
1897年 ・飯田町4丁目9番地に東京至誠医院を開院。
1900年 ・東京至誠医院の一室に東京女醫學校を創立。
1907年 ・東京女醫學校校長
1920年 ・日本女医会会長
1921年 ・文部省生活改善講習会講師となる。
・ドイツよりプロイセン赤十字第二等第三等章を
贈呈される。

1924年 ・勲六等瑞宝章を授与される。
1928年 ・第一回汎太平洋婦人会議(於ホノルル)に
日本女医会代表として出席。大礼記念章を
授与される。
1933年 ・文部省社会教育調査委員会委員に就任。
・教育功労賞を受章。
1935年 ・日本赤十字社特別社員となり、有功章を受章。
1937年 ・女性として初めて内閣の教育審議会委員と
なる。
1939年 ・厚生省・文部省の嘱託として、欧米諸国の
母子保護事業・医学教育を視察。
1940年 ・勲五等瑞宝章を授与される。
1946年 ・日本医師会参与。厚生省顧問に就任。
1952年 ・東京女子医科大学学頭に就任。
1955年 ・勲四等宝冠章を授与される。
1959年 ・5月22日午後10時55分、世田谷区羽根木町の
自宅で逝去(享年88)。
・正五位勲二等瑞宝章を追贈される。

歴史と未来

東京女子医科大学は、東京女醫學校を母体として設立され、社会に貢献する女性医師を数多く輩出してきた。

1950年(昭和25年)に東京女子医科大学医学部開設、1952年(昭和27年)に東京女子医科大学開校。その後、1998年(平成10年)には看護学部開設、そして21世紀に入ると、2008年(平成20年)に先端生命医科学センターの開設、2010年(平成22年)に統合医科学研究所、2012年(平成24年)には臨床研究支援センター開設と、時代の要請に応えるべく、医学・医療の研究施設を拡充・発展させてきた。そしてこれからも、施設の充実を図るとともに、先進的、全人的かつ安全な医療の追求を通じて、世の人々の健康に貢献する女性医師を育成していく。



本学・早稲田大学連携先端生命医科学研究所教育施設「TWIns」



東京女子医学専門学校の制帽
(大正9年制定)



東京女子医学専門学校附属病院
(現在の1号館)(昭和5年)

建学の精神

東京女子医科大学は、1900年(明治33年)に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年(昭和27年)新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥(うんおう)を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年(平成10年)度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

教育理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの(吉岡彌生傳)」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心(愛)」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

CONTENTS

【はじめに】

大学の沿革	P03
理事長・学長メッセージ	P03
東京女子医科大学 組織概略図	P04

【教育】

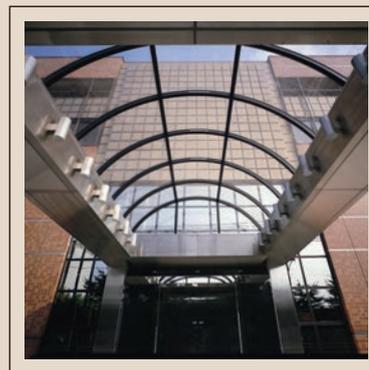
・医学部	P05
・大学院(医学研究科)	P06
・看護学部	P07
・大学院(看護学研究科)	P07
・看護専門学校	P08

【医療人のキャリア形成支援】

・卒後臨床研修センター	P09
・医療人統合教育学習センター	P09
・男女共同参画推進局	P10

【研究・医療施設】

・TWIns	P11
総合研究所	P14
統合医科学研究所	P14
実験動物中央施設	P14
医療施設	P15



- 1900 ○ 東京女醫學校創立
- 1912 ○ 財団法人東京女子医学専門学校設立
東京女子医学専門学校開校
- 1930 ○ 附属産婆看護婦養成所開設
(1947年廃止)
- 1944 ○ 東京女子厚生専門学校(保健婦養成)
開校(1951年閉校)
- 1947 ○ 財団法人東京女子医科大学予科認可
東京女子医科大学予科開設
- 1950 ○ 東京女子医科大学医学部開設
- 1951 ○ 学校法人東京女子医科大学認可
附属看護学院(乙種看護婦養成)開設
- 1952 ○ 東京女子医科大学開校
- 1953 ○ 附属看護学院を准看護学院に改称
(1973年廃止)
- 1958 ○ 大学院医学研究科開設
- 1965 ○ 附属高等看護学校開校
- 1969 ○ 看護短期大学開校
(2001年閉校)
- 1972 ○ 附属第二高等看護学校開校
(1977年附属第二看護専門学校に改称)
- 1975 ○ 看護短期大学専攻科(助産婦養成)開設
- 1977 ○ 附属高等看護学校を附属看護専門学校に
改称(1990年閉校)
- 1995 ○ 附属第二看護専門学校を
看護専門学校に改称
- 1998 ○ 看護学部開設
- 2001 ○ 大学院医学研究科に先端生命医科学系
専攻を開設
- 2002 ○ 大学院看護学研究科博士前期課程開設
- 2004 ○ 大学院看護学研究科博士後期課程開設
看護学部認定看護師教育センター開設
- 2008 ○ 先端生命医科学センター開設
- 2009 ○ 男女共同参画推進局開設
- 2010 ○ 統合医科学研究所開設
早稲田大学との大学院共同教育課程開設
医療人統合教育学習センター開設
- 2012 ○ 臨床研究支援センター開設
- 2016 ○ 新校舎建設計画中

Message

建学精神を受け継ぎ、「至誠と愛」の理念を
今の時代に展開する国際水準の大学に



理事長・学長 吉岡 俊正

東京女子医科大学は、創立以来一貫して「至誠と愛」の理念をもち、医療人としての専門能力を有し社会に貢献する自立した女性医療者の育成を行ってきました。女性の社会あるいは医療への参画機会が増え、働く女性を支援する制度が整ってきた現代社会においても、自立した女性医療者となるための高い志を育てるといふ本学の理念と意義は変わりません。本学は、創立者吉岡彌生が明治33(1900)年に東京女医学校を設立した後、歴史を重ね、現在は女性への教育を行う医学部、看護学部、共学の大学院医学研究科、大学院看護学研究科、そして多くの医療並びに研究施設を持ち、「至誠と愛」を実践する教育・研究・医療を通じた社会貢献を行っています。

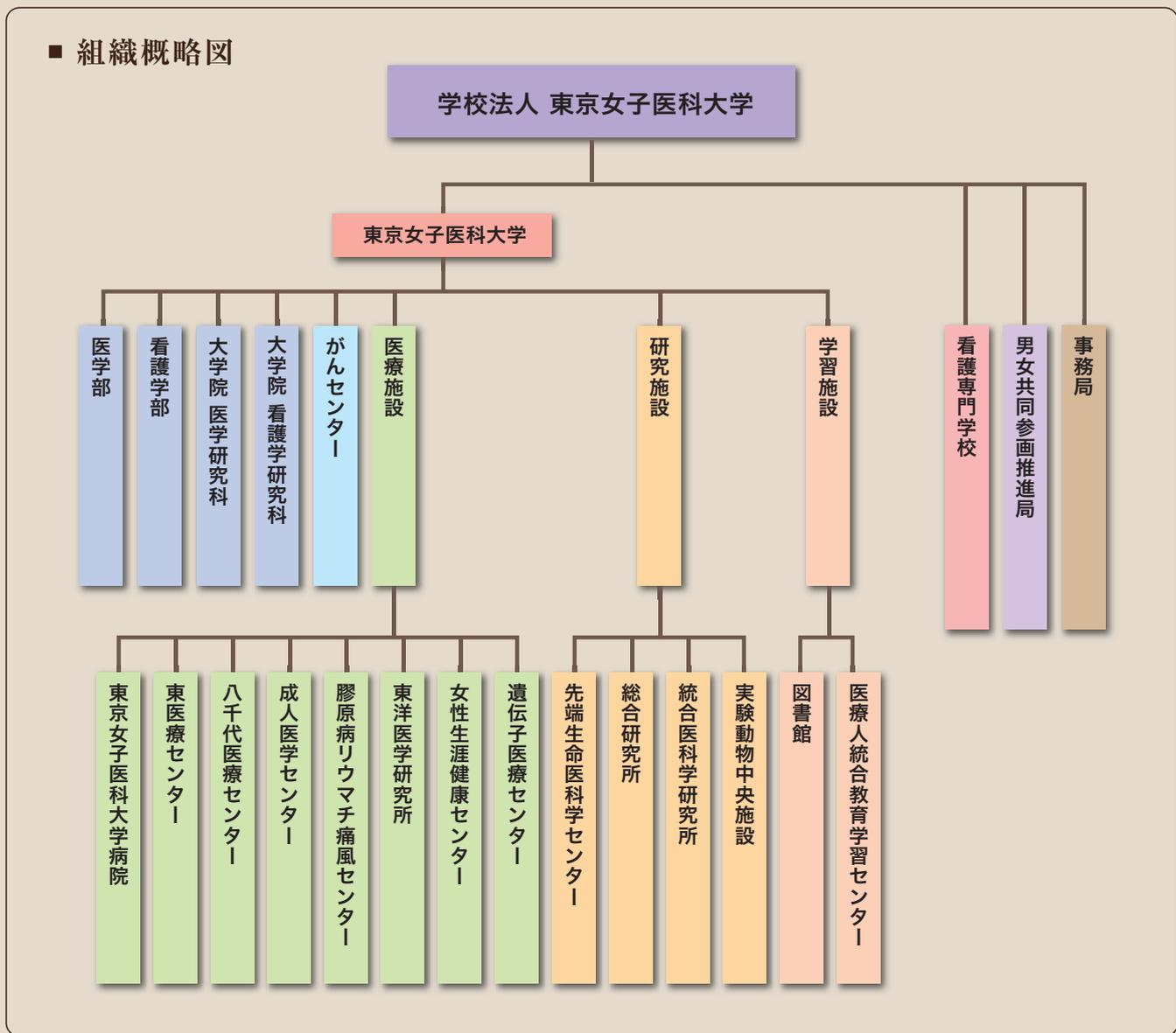
女性医療者が自立して、専門職として社会に貢献する気持ちとちからを修得するために、本学は質の高い教育を行っています。医学部は、医学教育の新しい考えを取り入れた国際基準を満たし、グローバルに活躍できる医師を育成する教育プログラムを実践し、看護学部は専門職としてのキャリア形成を含み看護師としての実践力を養う教育プログラムを実践しています。大学院では、医学、看護学の研究者育成だけでなく、早稲田大学との共同大学院を設け新しい医療を創るための人材を育成しています。

良い医療教育は、良い医療のなかで行われます。本学は質の高い医療を目指す多数の附属医療施設を持ちます。それぞれ先端医療、地域医療、疾患別医療、性差医療、代替医療など現代社会が求める様々な医療を提供し、またこれらの医療に携わる医療者を育成しています。今、医療安全の課題に取り組み、より高い質の医療を安全に提供する為の改革が行われています。

質の高い研究も、教育と医療に還元されます。研究は学部・大学院だけでなく、附属の研究施設として先端生命医科学研究所、総合研究所、統合医科学研究所、実験動物中央施設を持ち、最先端の医療を創造する研究が行われています。医学と工学の融合した再生医療研究、ロボット手術の研究、未知の疾患の遺伝子研究など特色のある研究が行われています。

建学の精神と大学の使命は110年を越える本学の歴史で変わることなく受け継がれてきましたが、時代に即して貫徹するために常に最良の教育・研究・医療を行うために変わり続けることが本学の姿です。東京女子医科大学は次世代を指向しながら進化しています。

■ 組織概略図



■ 「教育、研究、医療、経営・管理」領域における基本方針

教育

- 教職員に対して一貫性のある質の高い教育を提供するため、卒前カリキュラムや卒後研修プログラムの向上に継続的に取り組む。
- 教員評価やファカルティ・ディベロップメント(FD)の推進により、教員の質の更なる向上を図る(教員評価:教育・研究・医療・経営の評価基準、評価バランスにつき、検討のうえ体系を構築する)。
- 女性医師・医療人の支援、育成を推進する。

研究

- 基礎・臨床相互の橋渡しとなる研究を推進する。
- 先進的研究を推進し、産学連携活動を拡充する。
- 施設、体制、人材育成等、多面的に研究環境の整備、向上を推進する(研究テーマ毎の講座横断的研究チーム編成、および評価体制の構築)。

医療

- 高度医療、専門医療等、本学の特徴となる領域への経営資源の重点配分を実施する。
- 医療施設におけるグループ戦略の明確化を図る。
- 医療部門収支の黒字体質を確立する。

経営・管理

- 実効性の高い経営インフラ(会議や組織運営、情報・リスク管理体制等)を構築することにより、より迅速且つ的確な意思決定に繋げる。
- 学内外からの評価向上、財務体質強化に向けた全学的な取組み(経営資源の戦略的配分・人事諸制度・組織文化の見直し等)をリードする。
- 教育、研究、医療、本部を包含する事務部門全体の活性化と効率化を推進する。

医学部

医学部の教育の理念は、自らの能力を磨き、医学の知識・技術を修得して自立し、「至誠と愛」を実践する女性医師を育成することにある。そのために常に時代に対応した教育改革を行い、全国に先駆けて新しい教育を取り入れてきた。学部教育の特色として、1990年から導入している「テュートリアル教育」「統合カリキュラム」「人間関係教育」を柱にした学年縦断型教育がある。学年縦断型教育の目的は、医師として必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたって学習しうる基本的能力を獲得することにある。多様なキャリア形成とライフサイクルの中で自分を磨き続けることによって、生涯を通して医療に貢献できる女性医師を育成する。



臨床講堂

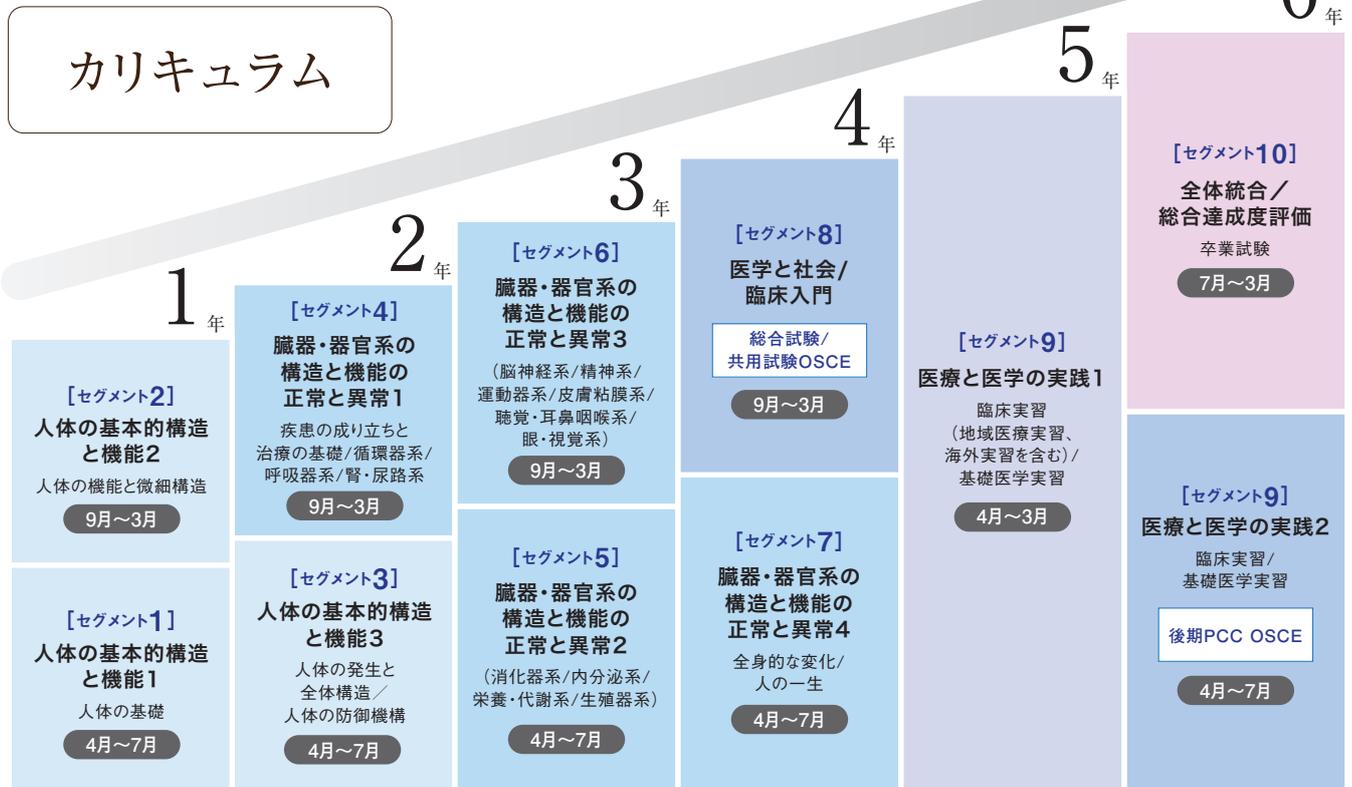
河田町
キャンパス

最新鋭の機器を備えた高度医療施設をはじめ、
様々な教育・研究施設を擁する
理想的な学びの環境



中央校舎

カリキュラム



縦断教育カリキュラム

セグメントに分かれた教育のほかに、学年を縦断し積み上げていく教育として、人間関係教育(慈しむ心、態度、コミュニケーション、倫理、協働の学習)、基本的・医学的表現技術(専門的文書作成力教育)、国際コミュニケーション(英語による医療対話教育)、情報処理・統計、研究プロジェクトおよび選択科目がある。

※セグメント1～7では、講義・実習とともにテュートリアル教育が行われ、医学の実践のための考え方を養う。また、セグメント8では、臨床的思考力教育のために、チームベースラーニング(TBL)が行われる。

グローバルな医学教育への取り組み

日本の医学部で初めて 国際外部評価による世界基準をクリア

東京女子医科大学医学部は、国際基準により教育の質の高さを認知された日本で最初の医学部となった。2012年10月、西太平洋地区医学教育連盟(以下連盟)を中心とする国際外部評価団を招き、日本で初めての医学部分野別評価を世界医学教育連盟グローバルスタンダード(2003年版)に基づいて受審した。

連盟による評価項目は、医科大学の使命と目標、教育プログラム、学生評価、入試や学生支援、教員、施設・設備、管理運営などの9つの領域と、個別的・具体的な36の項目にわたっている。なかでも医学教育プログラム(MDプログラム2011)など教育内容を中心に厳密な審査が行われ、どの項目においても高い評価を得ることができた。この評価に驕ることなく、今後もさらなる教育の質の向上をめざし、継続的改善を図っていく。



卒業生の進路

本学医学部は、毎年90%を超える医師国家試験合格率を維持し、卒業生はいずれも地域の中核病院で最先端医療を担っている。卒業後の進路は、2014年度卒業生でみると、37.1%が本学の附属病院、21.9%が他大学の附属病院、32.4%が国立、公立、民間の病院へ進み、研修医として勤めている。

大学院 医学研究科

医学に関する学術の理論と応用をより深く研究し、学問的および社会的に有為な人材を養成するため、大学院医学研究科(博士課程)を設置している。修業年限は4年(特例として3年)であり、所定の単位を修得し、学位論文の審査と最終試験に合格した者には博士(医学)Ph.D.の学位が授与される。

また、基礎研究医養成プログラムを設置。医学部に在籍中(第4～6学年)に大学院単位を履修でき、初期臨床研修と大学院1～2年次を兼ね、卒後4年で博士号を取得することも可能だ。

■専攻一覧

形態学系

機能学系

社会医学系

内科系

外科系

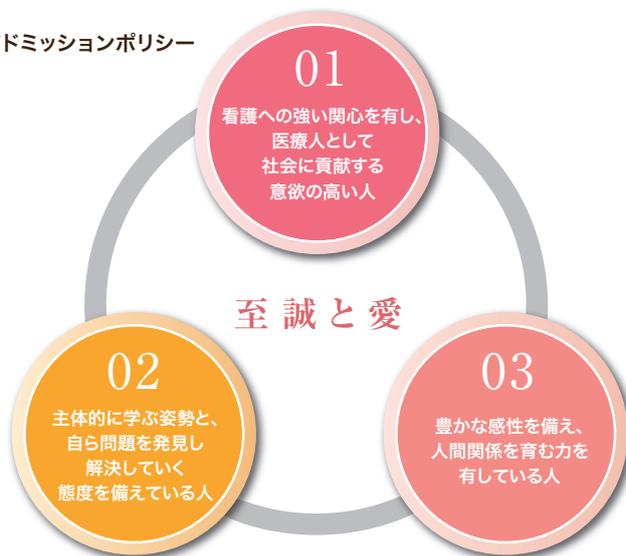
先端生命医科学系

6専攻の中から主分野を選択し、その教授・講座主任の指導と助言のもとに、修了までに大学院共通カリキュラム「機能学系、形態学系、社会医学系および先端生命医科学系専攻(12単位)・内科系および外科系専攻(14単位)」・主分野(15単位)・選択分野(3単位)を含む基礎系30単位以上、臨床系32単位以上を修得することが義務づけられている。

看護学部

近年の医療技術の高度化、超高齢社会の到来、人々の価値観の多様化、新たな生命倫理に関する問題提起など、保健医療福祉を取り巻く大きな変化に伴って、それらに対応できる質の高い看護職者が求められている。本学の看護学部では、社会のいかなる状況下においても、変わることはない生命への畏敬の念、人間の尊厳と権利の尊重を基本に「至誠と愛」の精神を看護実践に具現化し、人々の生命に寄り添う看護専門職者を育成している。

■ アドミッションポリシー



2つの
キャンパス

新宿の「河田町キャンパス」と、静岡県掛川市にある「大東キャンパス」の2つの施設を有しており、「河田町キャンパス」では都会における先進的医療、「大東キャンパス」では地方における地域密着型の保健医療を学ぶ。



河田町キャンパス



大東キャンパス

学科紹介

◆基礎科学系 ◆人文社会科学系 ◆臨床医学系 ◆看護学系

- 基礎看護学 ●成人看護学 ●小児看護学 ●母性看護学
- 老年看護学 ●地域看護学 ●精神看護学 ●看護職生涯発達学

学科内容については本学HP「学科紹介」
(<http://www.twmu.ac.jp/nursing/nsubject.html>)を参照。

大学院 看護学研究科

看護学研究科は、看護に関する理論と応用学を研究し、その深奥を極めて、文化の進展と社会に貢献できる人材を育成する。

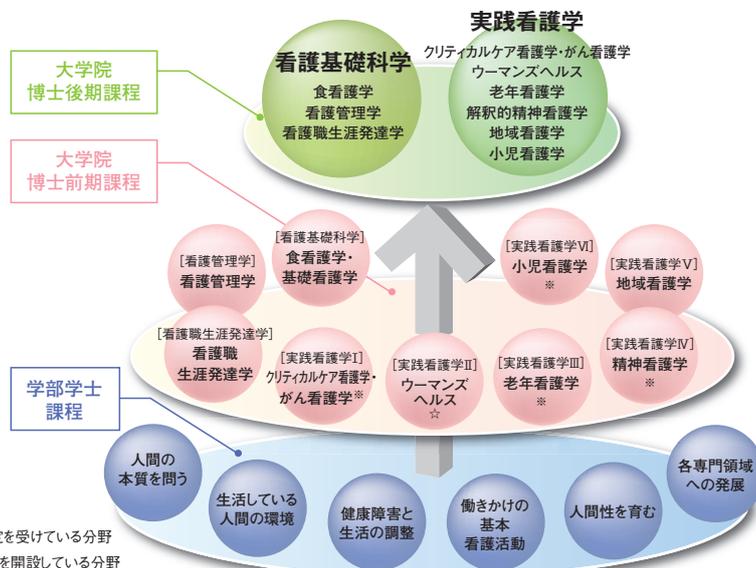
- 博士前期課程(修士)では、主として研究者、また専門看護師*として活躍できる人材の育成をめざす。
- 博士後期課程(博士)では、主として看護学の研究を創造的に自立してできる研究開発を担う人材の育成をめざす。

*専門看護師

専門看護師とは、個人や家族・集団に対して、水準の高い看護ケアを提供するために特定の専門看護分野の知識や技術を高めた看護師で、日本看護協会が認定する者。専門看護分野としては、クリティカルケア看護、がん看護、老年看護、精神看護、小児看護などがある。

※専門看護師(CNS)教育課程の認定を受けている分野
☆助産師国家試験受験資格取得科目を開設している分野

■ 学部学士課程と大学院博士(前期・後期)課程との関係図



看護専門学校

看護専門学校は、1930年(昭和5年)に設立された東京女子医学専門学校附属産婆看護婦養成所を母体として、大学病院と歩みを共にしている。1968年(昭和43年)、東医療センターに隣接する地に移転し、幾度かの教育制度の変遷を経て、1995年(平成7年)度より、東京女子医科大学看護専門学校として、看護師を養成している。人間として、女性として豊かな感性を養い、人間尊重に基づき、多様化する医療ニーズに対応できる実践的基礎能力を持った看護師を養成する。



教育理念

東京女子医科大学の理念である「至誠と愛」に基づき、女性の自立と看護の専門性を追求することを通して、主体性を啓発し、生涯にわたる自己教育能力を培い、社会に貢献し得る人材を育成する。

教育目的

人間として、女性として豊かな感性を養い、人間尊重に基づき、多様化する医療ニーズに対応できる実践的基礎能力を持った看護師を育成する。

看護学科(3年制・女子80名)

3年間の課程で、あらゆる対象へ看護を実践していく基礎となる知識・技術を学ぶとともに、自己の看護観を培っていく。保健医療福祉における看護の役割を理解し、チーム医療の中で協働して人々の健康支援ができる看護職者を育成する。

図書館

本学の図書館には、医学・看護学に関する書籍・雑誌が揃っている。

電子ジャーナル・電子ブックや文献データベースも提供しており、学生たちの学習・研究支援の場になっている。

本館図書館のほかに、東医療センター図書室、八千代医療センター図書室、河田町分室、大東分室、看護専門学校図書室がある。



学術情報PCコーナー

OfficeやAdobe系ソフト、JMPなどのさまざまなソフトを利用できる。ITサポートの担当者が各種ソフトの使用方法についての相談に応じている。



新着雑誌展示

入館ゲートの正面に最新号を展示している。



大学史料室・吉岡彌生記念室

大学史料室は、本学の創設者である吉岡彌生・荒太夫妻の業績をはじめ、教員や卒業生など、本学に関する歴史資料を収集、調査研究するために1966年(昭和41年)に開設された。1970年(昭和45年)には、吉岡彌生記念室を併設し、収集した資料の一部を展示公開している。



医療人のキャリア形成支援

卒後臨床研修センター

2004年制定の卒後臨床研修必修化に伴い、東京女子医科大学病院内にも、卒後臨床研修センターが設立された。毎年50～60名程の初期臨床研修医が入職している。東京女子医科大学病院の卒後臨床研修は、将来の専門性にかかわらず頻度の高い疾患やプライマリ・ケアに対応できる医師を育成することが目標である。

東京女子医科大学病院には、高度先進医療を担う診療科が揃っており、充実した診療科と指導医による研修システムが可能である。また、臨床症例も多く、臨床能力を高めるためには最高の研修病院である。さらに、2年間の初期臨床研修修了後には、後期臨床研修医として専門医取得に向けた道が開かれており、個々の目的や目標に合わせた幅広い選択肢が用意されている。



研修プログラム

基礎研修期間、必修研修期間を経て、選択必修研修プログラムとそれを補う選択研修により、日常的な診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、医師としての知識と技能を修得する。

基本コース

基本コースは将来専門とする診療科、または1年次に研修したい診療科と希望時期を選択して研修することを可能とし、将来の専門領域を見据えたコース設定が可能となっている。

特別コース

小児科
専門
コース

産婦人科
専門
コース

外科
専門
コース

内科
専門
コース

医療人統合教育学習センター

医療人統合教育学習センターは、学生、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士等のほか、離職後の女性医師再教育も含めた医療人のキャリア形成を支援するとともに、関連医療機関や地域医療との密接な関係を保ち、計画的な人材の育成をめざしている。

本センターは、臨床技能研修室(スキルスラボ)と統合教育学習室(ICTラボ)の2部門から構成されており、臨床技能研修室では、診察技術、医療技能などの修得を支援し、統合教育学習室では、全教職員のための生涯教育システムとして、研修セミナーや各種勉強会、e-ラーニングを主とした自主学习教材の提供を行っている。



スキルスラボ



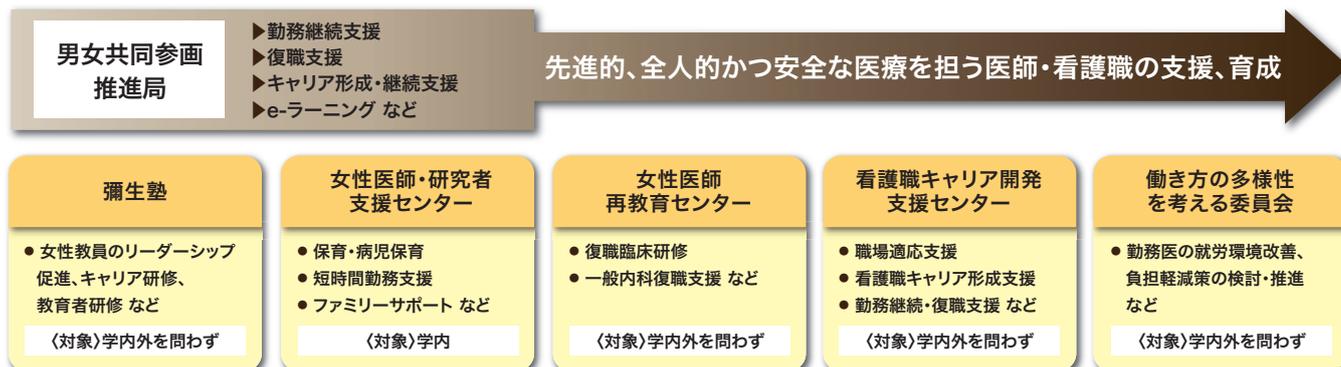
ICTラボ



多様性のある医療人育成プログラム
他職種への階層の異なる人材教育を提供

男女共同参画推進局

■キャリア継続の流れ



■女性医師と看護職のキャリア支援に尽力する5つの組織

彌生塾	女性教員のリーダーシップ促進
<p>彌生塾は、彌生先生の精神を受け継ぎ、社会のリーダーとしてより良い社会を作るために活動することを目指す女性医療人のための塾である。リーダーとなるには何が必要か、どのように自分の目指す道を見出すのか、どのように行動すべきかを、教員、先輩達と共に考え、実践に移していく。彌生塾から、本学の教授をはじめとする教育者、今後の医療を切り開く優れた研究者、社会に働きかけ社会をより良い方向に導く指導者が輩出することを目指している。</p>	
女性医師・研究者支援センター	保育と勤務形態整備による女性医師と女性研究者への支援
<p>女性医師・研究者支援センターでは、主に「多様な勤務形態の整備による女性医師・女性研究者のキャリア形成支援」と「子育て支援」のふたつの事業を行っている。「高い知識・技能と病者を癒す心を持った医療人の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出すること」という本学の建学の精神に沿って、様々なライブイベントと研究・診療の両立実施が可能な体制を構築し、困難に直面する女性医師に研究の遂行や診療の継続を可能とするシステム形成を行っている。</p>	
女性医師再教育センター	多様な研修プログラムを用意
<p>出産、子育て、あるいは配偶者の転勤などで臨床現場から一度離れた女性医師が、そのまま復帰の道を断たれてしまうケースは今も少なくない。離職した女性医師の再教育には実地の臨床研修が必須である。しかし、診療経験や離職期間などは様々であるため、当センターでは個々の状況に合わせて研修日数や時間、内容を決めるオーダーメイドの研修プログラムを行っている。また、教育・学習支援プログラム（e-ラーニング）は、男女を問わず医療従事者であればどなたでも無料で利用でき、休職中の女性医師のみならず、現役の先生方にも、専門外の学習など知識のアップデートに幅広く利用されている。現在、e-ラーニング事業は男女共同参画推進局全体の事業として運営している。</p>	
看護職キャリア開発支援センター	看護職の生涯にわたるキャリア支援
<p>看護職キャリア開発支援センターは、看護職のキャリア教育支援および勤務継続支援を目的として開設された機関である。主な活動内容としては、新人の職場適応支援、キャリア開発支援、キャリアカウンセリング、フレキシブル勤務体制・保育支援などがあげられる。統計によると、同期入職の看護師の中で定年まで勤める者はわずか4%。一方、平均在職年数は7年で、看護師の大部分が早期にリタイアするとも言われている。このような状況を鑑みると、看護師に対しては、本学退職後も含め、生涯にわたるキャリア支援が必要であると考え、このセンターが設立された。現在は、看護の基礎教育部門である看護学部教員と、臨床現場の看護職が協働で企画・運営を行っている。看護職が生涯にわたり中断することなく成長し続け、仕事を継続できるようになるためのキャリア支援システムの構築と発展をめざしている。</p>	
働き方の多様性を考える委員会	勤務医の就労環境改善を支援
<p>働き方の多様性を考える委員会では、勤務医の就労環境を調査・把握し、改善および負担軽減策の検討・推進を行っている。</p>	

研究施設

東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設(TWIns)



TWInsは、本学と早稲田大学による医工融合研究教育拠点として2008年4月に開設。東京女子医科大学のT、早稲田大学のW、そしてJoint InstitutionのInsを組み合わせて、「TWIns(ツインズ)」と命名された。当施設の最大の特徴は、2つの大学の研究者・学生と企業がひとつの建物の中で自由に交流・共同研究できる環境にあることだ。早稲田大学側は、TWIns内に早稲田大学先端生命医科学研究センターとして生命科学系の研究室を集結させた。そして、東京女子医科大学先端生命医科学研究センターには、再生治療や先端医療機器開発に取り組む先端生命医科学研究所に加え、企業や国公立研究機関との共同研究スペースであるメディカルイノベーションラボラトリー(MIL)を設置し、様々な共同研究や産業化のための大型プロジェクトを進めている。

東京女子医科大学・早稲田大学 共同大学院 共同先端生命医科学専攻

2010年には、日本初の共同大学院「共同先端生命医科学専攻」が誕生した。両大学は40年以上、医理工連携研究を進めてきたが、本共同大学院では「医療レギュラトリーサイエンス」の学問体系を確立し、医工融合により生まれる先端技術の実用化における諸問題を科学的に解決していく。

二大学共同の教育により、先端医療に貢献する研究者・技術者・医師・企業人・行政人を育成する。所定の審査により、博士(生命医科学)の学位が授与される。

共同先端生命医科学専攻

医療レギュラトリーサイエンス
“先端科学技術と人・社会の調整・調和”

東京女子医科大学

- 医療の現場
- 臨床研究・治験
- トランスレーショナルリサーチ

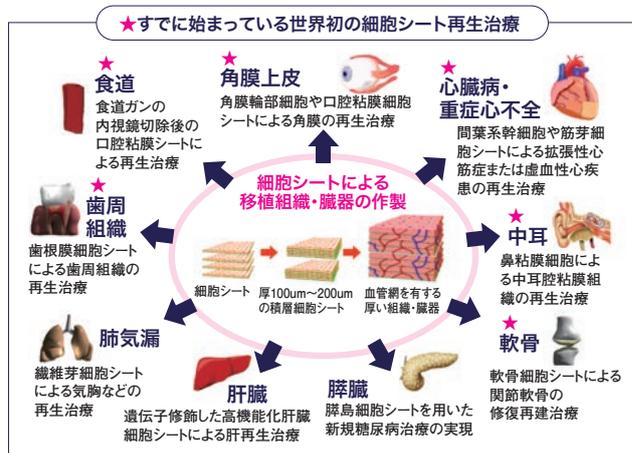
早稲田大学

- 総合大学としての文理融合
- 理工学の基礎・応用
- 医療に関わる人文社会科学

細胞シート工学

本研究所は細胞組織を再構築するためのアプローチとして「細胞シート工学」を提唱している。すなわち、我々ヒトをはじめとした動物の組織・臓器の基本構成要素を、細胞-細胞間および細胞-細胞外マトリックス間が連結した「細胞シート」としてとらえることで、生体内の組織構成を模倣した三次元構造の再構築を追求するものである。

基本単位となる「細胞シート」を作製するために、温度によって培養皿表面の性質が親水性／疎水性に変化するインテリジェント培養皿「温度応答性培養皿」を開発した。温度応答性培養皿を用いることで、細胞間接着や細胞外マトリックスを維持したまま、種々のシートを作製・移植することに成功している。



再生医療研究と新たなレギュラトリーサイエンス研究の双方を大学研究機関が推進

臓器ファクトリー

現在、人的作業による治療用細胞シート製造にはCell processing center (CPC)において法令に準拠した品質管理が必須であり、人による汚染や間違いを防ぐための作業が煩雑なことが治療発展と普及の障害となっている。本研究所では、細胞シート工学による医療をさらに加速する目的で、細胞培養自動化と機械化による無菌製造、安定・安全な細胞シート製品の供給をめざしている。また、治療に必要なiPS細胞の大量浮遊培養システムの開発、さらに生体外にて積層化細胞シートを肉厚化・高機能化するための血管付与技術開発を行い、3次元心筋組織から始まり、心臓、および肝臓、腎臓などの立体的臓器再生をめざしている。



T-FACTORY

先端工学外科学

従来の外科医の目と手と脳を超越するハイクオリティな治療の実現に向けて工学と情報科学の力を融合した手術支援技術の開発を行っている。脳神経外科で培った情報誘導下手術の技術をコアに、集束超音波治療、手術支援ロボット、手術工程解析などの研究に展開している。

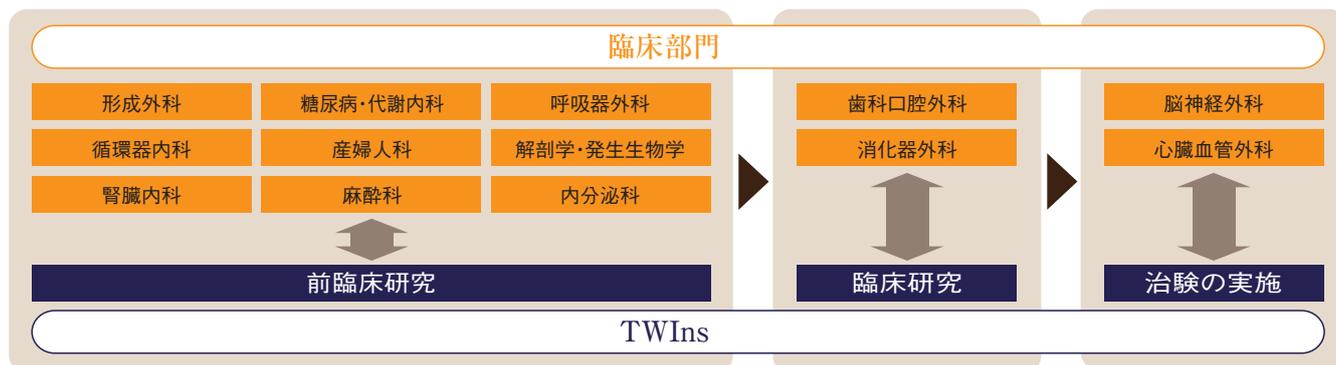
TWInsでの基礎技術開発をシームレスに臨床につなげ、最先端の医療が一日でも早く患者さんに届くよう、スマートサイバー治療室の研究にも取り組んでいる。



インテリジェント手術室 (Intelligent Operating Theater)

臨床部門との連携

TWInsで培われたテクノロジーを患者さんまで届けることが我々の究極の使命である。各臨床部門の医師と研究者が一丸となり臨床研究を推し進め、新規治療技術を多くの患者さんに享受していただくことをめざしている。



メディカルイノベーションラボラトリー (MIL)

TWIns内には医学、理工学研究の実用化（臨床応用）および社会還元促進のために、医理工学研究者（学）と企業（産）が密な研究・実験の連携を行うメディカルイノベーションラボラトリー（Medical Innovation Laboratory: MIL）が設置されている。このMILにおいて、日本発、世界初の有用な技術や医療を社会へ創出すべく、企業の方と医師、研究者との綿密なコミュニケーションと研究開発が行われている。



バイオメディカル・カリキュラム (BMC)

良い船をつくるには海のことを、良い飛行機をつくるためには空のことをよく知らなければならない。それと同じように、良い医療用具、良い医薬品をつくるには医学や医療についての正しい知識と実際的な認識が必要不可欠である。このカリキュラムは、企業、研究所、病院などで医療産業に携わる工学系、薬学系の方々を主な対象として、日常業務に従事しながら、医学全般についての体系的な知識を学べるよう構成された1年間の公開講座である。講義で正しい医学知識を学び、実習や見学を通して医学と医療の实地に触れることができる。医療産業の発展と医療産業従事者の資質向上という点で基盤的貢献をしており、日本ではもちろん、世界にも類のない、学際的な卒後継続教育コースである。



総合研究所

総合研究所は、共同利用施設（本学、東医療センター、附属八千代医療センターに設置）、放射性同位元素実験室、研究部からなる。共焦点レーザー顕微鏡、電子顕微鏡、高速セルソーター、生体分子間相互作用解析システム、自動搬送ユニット搭載・大型細胞観察装置など最新鋭の大型機器や多くの汎用機器が設置され、毎年多数の学内外の研究者がこれらの機器を共同で利用し基礎的研究から最先端研究まで幅広い研究を行っている。これらの研究成果は、毎年「東京女子医科大学総合研究所紀要」として刊行されている。



統合医科学研究所

統合医科学研究所は、日本有数のメディカルセンターとして培ってきた臨床的な知恵を基礎医学的な手法を用いて、新たな科学的な知見を引き出し、再び診療に役立てるというアプローチを推進していく。現在の医学・医療における科学的共通ベースとなっている遺伝情報の解析やタンパク質の発現解析を核として、いろいろな学内部署や学外企業と連携・共同しつつ、予防・診断・治療に繋がる研究を行っている。



実験動物中央施設

実験動物中央施設は、教育と研究に必要な実験動物の管理を行い、動物実験の遂行を円滑にすることを目的として設けられた本学共同利用施設のひとつ。マウス、ラット、ウサギ、モルモット、イヌ、ブタ等が飼育されている。本施設は本学の医学研究の発展のためにはなくてはならない施設として運営されている。2012年には実験動物中央施設分室が新たに開設され、ここには大動物の高度な実験施設、システムが備えられている。



医療施設

東京女子医科大学病院(東京都新宿区)

東京女子医科大学病院は、1908年の開院以来、質の高い安全な医療の提供と、次代を担う医療人の育成に努めてきた。当院には約40の診療科があるが、我が国で初めての診療科を超えた横断的な疾患・臓器別センターを設置し、現在、総合外来センターで、1日平均約3,900人の外来診療が行われ、入院病床は1,379床を有している。

2012年には、先進・高度医療の開発や臨床応用などにも重要な役割を果たすべく、新たに臨床研究支援センターを開設。またがん診療にも力を入れており、日々、利用者のニーズに応えるべく、医師、看護師、薬剤師らによるチーム医療に取り組んでいる。

さらに、地域医療施設をつなぐシームレスな医療連携を推進。この一環として、入院中の患児のために院内における学習環境の確立や退院後の復学支援を目的とし、2013年4月に新宿区立余丁町小学校の特別支援学級として院内学級(名称:わかまつ学級)を開設した。

また、明日を担う医療人の育成を使命とする医療機関として、医師や看護師の臨床研修に充実したカリキュラムを提供するとともに、チーム医療を担う専門職(薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、栄養士など)に実践的な研修プログラムを整備し、人間性豊かで優秀な次世代の医療人を育成している。2012年度からは文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プランによるがん医療の人材育成にも参加。さらに本学の特性を生かし、女性医療人の育成に重点的に取り組んでいる。



総合外来センター



わかまつ学級



第1病棟

■診療部門

- 血液内科
- 神経精神科・心身医療科
- 小児科
- 乳腺・内分泌外科
- 小児外科
- 整形外科
- 形成外科
- 皮膚科
- 産婦人科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科

- 放射線腫瘍科
- 画像診断・核医学科
- 麻酔科
- 歯科口腔外科
- 総合診療科
- リハビリテーション科
- 病理診断科
- 化学療法・緩和ケア科
- リウマチ科

[心臓病センター]

- 循環器内科
- 心臓血管外科
- 循環器小児科

[消化器病センター]

- 消化器内科
- 消化器・一般外科
- 消化器内視鏡科

[脳神経センター]

- 神経内科
- 脳神経外科

[腎臓病総合医療センター]

- 腎臓内科
- 腎臓外科
- 泌尿器科
- 腎臓小児科
- 血液浄化療法科

[糖尿病センター]

- 糖尿病・代謝内科
- 糖尿病眼科

[内分泌疾患総合医療センター]

- 高血圧・内分泌内科

[母子総合医療センター]

- 母体・胎児医学科
- 新生児医学科

[呼吸器センター]

- 呼吸器内科
- 呼吸器外科

[救命救急センター]

- [小児総合医療センター]
- [がんセンター]

東医療センター (東京都荒川区)

東医療センターは、1934年(昭和9年)に尾久病院として開設され、2005年(平成17年)に東医療センターと改称された。現在の診療科は、開設時の内科、外科、小児科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科のほか、精神科、整形外科など21の診療科と9つの診療支援部門があり、約250名の医師と約500名の看護師が勤務し、東京都東北部(荒川・足立・葛飾区)の地域中核病院としての使命を担っている。また、この地区で唯一の三次救急医療センターを有しているため、重症の脳卒中・頭部外傷を扱う病院として常に救急に対応できる体制をとっている。大学病院でありながら市中病院としての特色も持ち合わせ、老年医学や在宅医療などの地域に根差した医療にも取り組んでいる。そして、教育病院として卒前、卒後教育にも力を入れている。大学病院ならではの稀な疾患だけでなく、日常よく遭遇するような疾患も数多く、実際の臨床に即した講義や病院実習を実践している。



附属八千代医療センター (千葉県八千代市)

千葉県八千代市にある東京女子医科大学附属八千代医療センター(TYMC)は、急性期医療を担う高機能病院として2006年に開院した。

「地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和を」を理念に掲げ、八千代市を中心とした千葉県東葛南部の地域医療を担っている。2007年に総合周産期母子医療センターに認定され、2009年には災害拠点病院に認定された。また、2011年には千葉県がん診療連携病院の指定を受けた。2016年度には3次救急を担う救命救急センターの指定を受け、今後ますます増える虚血性心疾患、脳血管障害、悪性新生物、糖尿病や精神疾患などの成人医療や千葉県における小児周産疾病の一翼を担っている。





附属東洋医学研究所
(東京都北区)

JR田端駅前にあり、漢方部門と鍼灸部門に分かれている。漢方部門は保険診療にて漢方薬を中心とした薬物療法を行っている。対象の疾患は全科に及び、西洋医学との併用も視野に入れ、全人的医療を行うことを特徴としている。また、鍼灸部門は自費診療で施術を行っている。学生や医師の教育機関としての役割も有している。



東医療センター

» 詳細はP16へ



東医療センター日暮里クリニック

八千代中央

附属八千代医療センター

» 詳細はP16へ



主な施設所在地

■ 学校法人 東京女子医科大学本部
■ 東京女子医科大学 医学部／看護学部
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 TEL:03-3353-8111

■ 看護学部(1年)大東キャンパス
〒437-1434 静岡県掛川市下土方400-2 TEL:0537-63-2111

■ 東京女子医科大学 看護専門学校
〒116-0611 東京都荒川区西尾久2-2-1 TEL:03-3894-3371

■ 先端生命医科学センター
〒162-8480 東京都新宿区若松町2-2 TEL:03-3353-8111

■ 東京女子医科大学 病院
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 TEL:03-3353-8111

■ 東医療センター
〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10 TEL:03-3810-1111

■ 東医療センター 日暮里クリニック
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-20-1
サンマークシティ日暮里ステーションポータワー4・5階 TEL:03-3805-7771

■ 附属八千代医療センター
〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田477-96 TEL:047-450-6000

■ 附属成人医学センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー20階
TEL:03-3499-1911

■ 附属膠原病リウマチ痛風センター
〒162-0054 東京都新宿区河田町10-22 TEL:03-5269-1711

■ 附属膠原病リウマチ痛風センター(分室)
〒163-0804 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル4階
TEL:03-3348-0988

■ 附属女性生涯健康センター
〒162-0056 東京都新宿区若松町9-9 パークホームズ新宿若松町1階
TEL:03-5363-0723

■ 附属東洋医学研究所
〒114-0014 東京都北区田端1-21-8 NSKビル3階 TEL:03-6864-0821

■ 附属遺伝子医療センター
〒162-0054 東京都新宿区河田町10-22 TEL:03-3353-8111



東京女子医科大学